

16 世紀漢文-チュノム・ベトナム語対訳資料『傳奇漫録』解 音の試訳¹

鷺澤 拓也

キーワード： 傳奇漫録 解音 ベトナム語 字喃 漢文 対訳

要旨

本稿は、16 世紀にベトナムで書かれた漢文と古ベトナム語の対訳資料『傳奇漫録』解音の一部にグロスをつけ、和訳することを試みる。このベトナム語は漢字を変形した民族文字チュノムで書かれており、Nguyễn Quang Hồng (2001)によりローマ字に翻字されている。『傳奇漫録』解音は、当時のベトナム語を知る上で貴重な資料であり、また解音という漢文からベトナム語への逐語的な訳がどのようになされたかを通じて言語接触のあり方を知る上でも貴重な資料となるため、本報告での試訳は後の研究に大きく貢献すると期待する。

1. はじめに

ベトナムも日本と同じく漢字文化圏に属し、漢文資料を大量に受容したが、日本では漢文を「訓読」という形で日本語で読むのが慣例だったのに対し、ベトナムの場合、漢文はベトナム漢字音で語順を変えずに読み下すのが基本であった。そこで、13-19 世紀のベトナムにおいて、漢文をベトナム語で理解できるようにするために、漢文から一定の規則に基づいて翻訳された「解音 (giải âm)」と呼ばれた特殊な文体のベトナム語が、漢文に註釈の形で付されることがあった。このベトナム語は、漢字を転用したり、変形したりして作られたチュノム (字喃) という文字によって表記された。解音は多くが漢文からの直訳体で、中でも 16 世紀末に書かれた解音の代表作である『傳奇漫録』の解音は、特に厳密に一字一句対応して書かれていることで知られる。また、用いられる文体や語彙、文法機能を表す語の用法が、当時の口語に近いベトナム語と比較して特殊であったことが指摘されている。

本報告では、Nguyễn Quang Hồng (2001)によるチュノムのローマ字 (クオック・グー) 翻字をもとに、ベトナム語の訳文の部分のグロスをつけ、和訳することを試みる。

2~6 章で背景的な知識を共有した後、7 章で本報告の詳細を述べ、8 章にて本文を記す。

2. チュノムとその読み方

2.1. チュノムについて

¹ 本報告は、東京大学の「次世代人文社会学育成プログラム」の助成金、ならびに日本学生支援機構「海外留学支援制度 (長期派遣)」の支援により可能となった。

チュノムは、成立年代は諸説あるが、ベトナム語を表記する表語文字として遅くとも16世紀には確立したものである。1字が1音節に対応する。ベトナム語は孤立言語であり、音節という単位が意味と密接に結びついている。

Nguyễn(2008)はチュノムを表1のように分類している²。大きく二つに分けるならば、一つは漢字を用いてベトナム語の音節を表す方法(A1~C2)、もう一つは独自の文字を作ってベトナム語の音節を表す方法(狭義のチュノム、D1~G2)である。前者には、規範的漢越語でない漢語起源の語³を当該漢字で表したものの(A2)や、ベトナム語に意味のみが対応する漢字を用いたものの(B)、音のみが対応する字を用いたもの(C1, C2)がある。後者には、漢字の音を組み合わせさせたもの(D1, D2)、漢字の意味を組み合わせさせたもの(E1, E2)、音を表す部分と意味を表す部分からなるもの(F1, F2)、漢字の音または意味を借用するが、その字をもとに、1画増やしたり、省略したりなどして、新たな字を作ったもの(G1, G2)がある。

表1 チュノムの分類

				記号	例	左例の漢字音	
漢字借用	義借用	漢越音		A1	才 tài 「才能」	tài	
		非漢越音	不完全漢越音	A2	符 bùa 「お札」	phù	
			純越音	B	凸 lòi 「凸面の」	đột	
	音借用	漢越音		C1	沒 một 「一」	một	
不完全漢越音		C2	饒 nhau 「互い」	nhieu			
創作 (狭義の 字喃)	合字	一側面	会音	等立	D1	韻 làn 「～回」	lận + dân
				正副	D2	霸 trài ⁴ 「果物」	ba + lại
			会意	等立	E1	呑 trời 「空」	thiên+thượng
				正副	E2	灰 tro 「灰」	hỏa + hôi
		二側面	形声	等立	F1	冪 trăm 「百」	bách + lâm
				正副	F2	怙 ghét 「嫌う」	tâm(心)+cát
	単独	音		G1	芾 nào 「どの」	náo(鬧)	
		義		G2	女 dĩ 「女の子」	nữ(女)	

2.2 チュノムの読み方

表1では各チュノムにあたる語を現代ベトナム語の正書法表記で記したが、16世紀の解音に

² 表1は Nguyễn Quang Hồng (2008:208) にある表をもとに作成。

³ 漢字音が体系化される以前にベトナム語に取り入れられた「古漢越語」と、漢越語の体系化後に独自の音変化を被った「漢語越化音」の二種類がある。Nguyễn Q. H. (2008:195)

⁴ 造字当時の推定音は*blái

はチュノムしか書かれていないため、厳密にはどのように読まれたのか分からず、推定でしかない。

19-20世紀、ローマ字表記が優勢になった際に、チュノムもローマ字も解する知識人が多くのチュノムによる文書をローマ字に翻字したり、チュノムとローマ字を併記して書かれた文書を書いたりしたので、その時代の資料に基づいて各チュノムに読み方があてられている。

本報告にてチュノムに併記されるローマ字は、それらの読み方をもとに、より古い時代のチュノムの読み方を推定したものにはすぎない。そのため、現代音に則したローマ字表記法⁵が当時の音を正確に表していない上、読み方が不明な字や、読み方が議論の対象となっている字がある⁶。

3. 時代区分および背景

『傳奇漫録』の解音に見られるベトナム語は、Vũ Đức Nghiệu (2011:230-270)によると、13-16世紀の「古ベトナム語」に分類される。「古ベトナム語」は「先古ベトナム語」の後、「中世ベトナム語」の前であり、チュノムが成立してから、ローマ字資料が現れるまでの段階を指す。漢文文書の翻訳やベトナム語による創作が盛んになった時期であり、それに伴い、固有語による表現が豊かになったことと、漢語からの借用語が増えたこと、漢語に相当する固有語が創作されたことが特徴とされる。音韻史的には、前音節を伴う CvCVC 構造の語が徐々に減少し、単音節化が進む段階だが、音節頭子音に子音クラスターを持つ語は依然として多くあったと推定されている。

4. 『傳奇漫録』解音について

『傳奇漫録』(*Truyện kỳ mạn lục*)は、16世紀⁷に阮嶼(グエン・ズー、Nguyễn Dữ)⁸によって書かれたもので、解音は16世紀末に阮世儀(グエン・テー・ギー、Nguyễn Thế Nghi)によって付されたとされる。

『傳奇漫録』は、ベトナムにまつわる伝奇(この世とあの世にわたる奇譚を内容とする短編小説)を集めたものである。5篇で1巻を成し、全4巻からなる。中国の伝奇小説の影響を受けているものの⁹、ベトナムを舞台とし、ベトナム人が登場人物となり、李陳朝期から黎朝期まで(最も早いものは1396年、最も遅いものは1458年)の歴史的事実を背景にしている。世相や人情を、叙事的にまた抒情的に、奥深く表現しており、ベトナムの漢文による散文の中でも

⁵ 母音 : a /a/; ă /ă/; â /â/; e /e/; ê /ê/; i, y /i/; o /o/; ô /ô/; ơ /ơ/; u /u/; ư /ư/
子音 : b /b/; c, k, q(u) /k/; ch /c/([tʃ]); d, gi /z/ [z]; đ /đ/; g, gh /g/; h /h/; kh /x/; l /l/; m /m/; n /n/;
ng, ngh /ŋ/; nh /ɲ/; p /p/; ph /f/; r /z/([z]~[ʒ]); s /s/ ([s]~[ʃ]); t /t/; th /tʰ/; tr /c/ ([tʃ]~[tʃʰ]); v /v/; x /s/ ([s])
声調 (調値) : a 44; à 21; á 35; â 312; ă 325 (声門閉鎖を伴う); ơ 31 (声門閉鎖を伴う) (川本 2011:1906-1913)

⁶ Nguyễn Quang Hồng (2008:217-221).

⁷ 厳密には、1547年あるいはそこから遡って数年乃至数十年の間の時点と考えられる (川本 1999:9).

⁸ 「嶼」の字音は Tr だとされるべきところだが、慣用的に Dữ と読んでいる (川本 1999:7-8).

⁹ 川本(1999:15-26).

傑作といわれている¹⁰ ¹¹。

その解音については、チュノムによる詩文学が盛んになり、また仏教・儒教・道教などの宗教書の解音が成されるようになった当時、非宗教書かつ散文¹²で書かれたものは珍しく、同書は「訳文学」の始まりといわれる。一言一句原作に忠実に訳されているため、口語との隔たりが多く見られるが、流れるような文体が当時のベトナム語の書き言葉を明確に反映しているともいわれる¹³。

また同書は、古ベトナム語の語彙・語法、16-17世紀のチュノム、伝統的な訳の中での漢語と固有ベトナム語の使われ方、文献学など、多様な方面で価値を見出すことができるものであり、文学、言語学、ベトナム語学、漢喃学、文献学など多くの分野に益するものとなる¹⁴。

川本(1999:89)も、『傳奇漫録解音』に見られるチュノムは数的にも相当にまとまった、当時の文字と言語について貴重な資料的意義をもつ、と述べている。

現存する刊本は5種ある。それぞれ(1)1712年、(2)1714年、(3)1737年、(4)1763年、(5)1774年の刊本である。(1)は阮嶼による漢文のもののみで解音はなく、それに解音と注釈が付されて(2)が刊行され¹⁵、後の刊本は(2)の重刊本である。ただし、(2)と(3)は上冊(1, 2巻)のみしか現存していない。(3)は最も誤字、汚損、摩耗が少ない。一方(4)および(5)は上下両冊が揃っているが、汚損や摩耗が随所に見られる¹⁶(川本 1999:27-49)。

本報告の本文およびローマ字転写は Nguyễn Quang Hồng (2001)にあるものを基本的に採用した。ここで用いられている版は(5)のものである。版により字が異なる部分で、他の版にあるものが妥当と思われた場合は、そのように明記の上、妥当と思われる方がローマ字転写にて採用されている¹⁷。なお、字の判別が難しいものは、川本(1999)において活字化されているものを参考にした。

5. 本報告の範囲

本報告では、『傳奇漫録』解音初めの短編、「項王祠記」(2a-14b頁)の前半部分のグロスと和訳を試みる。この短編の総字数は漢文が1721字、チュノム訳が2226字であり、本報告の部分は漢文727字、チュノム訳958字である。

「項王祠記」のあらすじを記すと以下の通りとなる。

¹⁰ 川本(1999:3)、Nguyễn Quang Hồng (2001:9-10)。

¹¹ ベトナム人が書いた漢文なので、ベトナム語の影響も考えられるが、それについての分析には未だ至っていない。

¹² 本文の中に漢詩は含まれているが、解音で韻文にはなっていないため、訳への影響は少ないと考えられる。

¹³ Nguyễn Quang Hồng(2008:429)。

¹⁴ Hoang Thi Hồng Cẩm (1999:11-12)。

¹⁵ この刊本が『新編傳奇漫録』または『新編傳奇漫録増補解音集註』と題され、より正式にはこちらの書名も用いられる。漢文のみの版は『舊編傳奇漫録』と題されているが、新編の刊行にあたって「舊編」と付されるようになったと考えられる(川本 1999:29-30)。

¹⁶ 川本(1999:27-49)。

¹⁷ Nguyễn Quang Hồng (2001:21)。

胡宗騫（14世紀、陳朝末期に実在した翰林学士）は、中国へ遣わされて行く道中の項羽（項王）¹⁸の祠にて、項羽を諷刺する詩を詠む。その夜、宗騫は夢で項羽に会う。項羽は宗騫の詩に対して反対の意を示し、楚も漢に劣るところはなかったが、天運が漢に味方したために漢が勝ったに過ぎないと言った。それを聞いた宗騫は、項羽がいかに道徳に反したことをしたか、逆に漢がいかに王道を行ったかを述べ、項羽を説き伏せた。項羽が反論できなくなった時、項羽の臣下が、漢の劉邦の道徳に則っていたとは思えない行動を挙げ、宗騫に理解を促した。宗騫はそれを聞いて納得した。

6. 解音の原則

ベトナム語は、漢文と同じく孤立語であり、基本語順がSVOであるが、修飾語は漢文と異なり被修飾語に後置される。解音では、漢文の一語一語に対応する語をあて、修飾―被修飾の前後関係を変えるという逐語的な訳がなされる。ただし、ほぼすべての固有名詞に「人」、「地」、「王朝」といった名詞が付され（本文<3b:7>1つ目、<2b:1>、<6a:5>1つ目参照）、また漢文の原文にない文法機能語が訳で付されたり（<5a:1>など）、指示詞が具体的な名詞で言い換えられたり（<4a:4>1つ目、<7a:8>1つ目など）することもたびたびあり、完全に機械的な翻訳ではないことも見て取れる。

7. 本報告での試み

本報告では、Nguyễn Quang Hồng (2001)によるチュノムのローマ字翻字に基づき、『傳奇漫録』の解音にグロスを与え、それを踏まえて、基本的には原文の漢文に従って、本文の和訳を試みた。ただし、漢文と解音のベトナム語が構造あるいは意味上大きく異なる場合は、解音部分の和訳を別に付した。解音部分のベトナム語の訳を積極的にしなかったのは、第4章にて記したように、当時のより口語的な文体と大きく異なり、純粋な古ベトナム語として意味を正確に捉えるには資料に欠如しており、むしろ解音があくまで漢文の訳文として機能する文体であることを考えると、漢文の意味を分かった上で逆に解音のベトナム語を捉えていく方が研究の順序としては正しいと思われたためである。

辞書として、漢和辞典『漢辞海』、現代語の越和辞典である『詳解ベトナム語辞典』、およびベトナム語の古語辞典(Vương Lộc 2002)を用いた。特殊な古語の用法や歴史的事実については、原本の割註と Nguyễn Quang Hồng (2001)による註を参考とした。

上から順に、漢文、チュノム（字喃）、ローマ字翻字、グロス、和訳、そして必要に応じて解音ベトナム語の和訳である。解音および割註が入る箇所ごとに節を分けた。「< >」は節の1字目のページと行であり、aは表、bは裏をあらわす。

漢字はMS明朝にて表示可能な限り、原本と同じ字体としたが、不可能なものは表示可能な範囲内にある別の字体で代用した。

¹⁸ 中国の秦王朝が滅びた際、楚（西楚）の王として一時主導権を握ったが、漢の劉邦に敗れた。

チュノムは、Vietnamese Nôm Preservation Foundation のウェブサイトの Nôm Lookup Tool において検索・表示可能な字はそのまま表記し、そうでないものは、{}に囲まれたものを一文字とし、記号のないものは左右、「/」は上下、「+」はその他の位置関係を示すこととする。

ローマ字は、文頭でも大文字にせず、固有名詞の頭文字は大文字に、その他は小文字にした。ローマ字の節の末尾の句読点は省略し、節の中の“,” および “:”は Nguyễn Quang Hồng (2001)にあるものをそのまま記した。斜体は読み方が不明な字を意味する。

グロスでの略語の意味は以下のとおりである。

CL: 類別詞 COP: コピュラ、繫辞 NEG: 否定 QUES: 疑問

本報告が解音、古ベトナム語、ひいては漢字文化圏の言語文化の研究に寄与することを期待する。

8. 本文

<2a:3>

(漢) 承旨胡宗鷺

(喃) 官承旨戸胡尙羅宗鷺

(口) quan Thừa chỉ họ Hồ, tên là Tông Thúc

(グ) 官吏 承旨 氏 胡 名前 COP 宗鷺

(和) 承旨¹⁹の胡宗鷺、

<2a:5>

(漢) 工於詩

(喃) 哈蒸疎

(口) hay chung thơ

(グ) 有能である ～に 詩

(和) 詩に長けており

<2a:5>

(漢) 尤長規諷嘲諢

(喃) 強賤蒸例吠{(木/土)}例昭{口教}

(口) càng dài chung lời dạy dỗ, lời trêu giễu

(グ) さらに 長い ～に 言葉 教え導く 言葉 嘲る からかう

(和) 教えたり諷刺したりすることにとりわけ長けていた。

¹⁹ 役職名。

<2a:6>

- (漢) 陳末奉命北使
 (喃) 卒代茹陳鼻命鼻使渚北
 (口) rôt đời nhà Trần, vâng mệnh sang sứ nước Bắc
 (グ) 末世 王朝 陳 従う 命令 渡る 使い 国 北
 (和) 陳代末に北への使いの命を受けた。
 (喃和) 陳代末に命に従って北の国(中国)へ使いに行った。

<2a:7>

- (漢) 經項王祠下
 (喃) 戈鄴廟項王
 (口) qua dưới miếu Hạng Vương
 (グ) 過ぎる 下 廟 項王
 (和) 項王の祠の下を通り過ぎ、

<2a:7>

- (漢) 題詩云
 (喃) 排疎浪
 (口) bày thơ rằng
 (グ) 並べる 詩 曰く
 (和) 詩を書いていることには

<2a:8>

- (漢) 百二山河起戰鋒
 (喃) 鬪滝内仁敵冢越薊銳共打
 (口) trong sông núi hai địch trăm, dấy mũi nhọn cùng đánh
 (グ) 中 川 山 二 敵 百 起こす 鼻/先 鋭い 共に 打つ
 (和) 百対二の山河²⁰で戦の矛先を起こし
 (喃和) 二人で百人を敵にする川と山で鋭い先を起こして共に戦い

²⁰ 『漢紀』に、漢の高祖(劉邦)が関中に都を定めたことを田肯が祝して「秦得百二」と言ったとされる。秦の地は険しく、二万人で百万人の敵にあたることのできる、という意味である。

<2b:1>

(漢) 携將子弟入關中

(喃) 携冗衆昆媿匱坦關中

(口) dắt đem chúng con em vào đất Quan Trung

(グ) 手を引く 連れていく 彼ら 子弟 入る 地 関中

(和) 子弟を連れて関中²¹に入った。

<2b:3>

(漢) 煙消函谷珠宮冷

(喃) 燒殘隘函谷靦宮珠匱冷

(口) khói tàn隘 Hàm Cốc, trong cung châu đà lạnh

(グ) 煙 消える 狭い場所 函谷 中 宮 珠 すでに 冷たい

(和) 煙は函谷²²では消え、珠宮は冷たく、

<2b:4>

(漢) 雪散鴻門玉斗空

(喃) 雪散坦鴻門堆玉斗匱空

(口) tuyết tan đất Hồng Môn, đôi ngọc đấu đã không

(グ) 雪 解ける 地 鴻門 一对 玉斗 すでに 空 (から)

(和) 雪は鴻門では解け、玉斗は空 (から) である。²³

<2b:6>

(漢) 一敗有天亾澤左

(喃) 輸蔑陣{罢由}固機歪秩於准澤左

(口) thua một trận bởi có cơ trời, mất ở chốn Trạch Tả

(グ) 負ける 一 戦 ~により ある 機 天 なくなる ~で 地点 澤左

(和) 天運のために一度負け、澤左で滅び²⁴、

²¹ 漢の都で、四方に要所となる関所がある。

²² 関中の東にある関所。『古詩』に「三月煙消函谷冷」とある。ここでは、項羽が秦の宮を焼き払ったことを指す。

²³ 鴻門で項羽と劉邦が酒宴を開いた後、劉邦が張良を留まらせて項羽に感謝の意を表させた。張良は項羽に一对の白璧を献じ、項羽の臣下である范増に一对の玉の升を与えたが、范増は劍を抜いてこの玉斗を切り裂いてしまった。(『西漢綱目』)

²⁴ 項羽が垓下の戦いで劉邦の包圍を破り、陰陵へ逃げたとき、道に迷い、そこにいた農夫に道を聞いたところ、「左、左」と答えたので、それに従って行ったら、大きな沼に入り、抜け出せなくなった。そこに漢の軍が追いついたので、項羽は隨行者に「此天之亾、非戦之罪 (これは天が私を滅ぼしたのであって、戦に失敗があったのではない)」と言った。(『西漢史』)

<3a:1>

(漢) 重來無地到江東

(喃) 吏吝女雙拯別准典所郡江東

(口) lại lần nữa song chẳng biết chốn, đến thừa quận Giang Đông

(グ) 来る 回 その上 しかし NEG 知る 地点 至る その 郡 江東

(和) 再び来たが江東に至る道がなかった。

<3a:1>

(漢) 經營五載成何事

(喃) 孱孱齷齪芻蕘仍役之

(口) sửa sang năm năm nào nên những việc chi

(グ) なんとか打ち立てようとする 五 年 どの 成す いくつか 事 何

(和) 五年間²⁵、国を打ち立てようとしたが何を成しただろうか

<3a:2>

(漢) 銷得區區葬魯公

(喃) 涅羣特勳勳禮葬爵魯公

(口) nát còn được mảy mảy lễ táng tước Lỗ Công

(グ) 粉々になる 残る 得る 小さい 儀礼 葬る 爵 魯公

(和) 消え失せて魯公²⁶として小さく葬られた。

<3a:4>

(漢) 題訖

(喃) 排疎未

(口) bày thơ rồi

(グ) 並べる 詩 すでに

(和) 詩を書き終わってから、

<3a:4>

(漢) 回鞭客次

(喃) {馬終}{木越}馭吏擬店客

(口) gióng vọt ngựa lại nghỉ điểm khách

(グ) 打つ 鞭 馬 来る 休む 店 客

(和) 向きを変えて宿屋まで馬を駆った。

(喃和) 馬に鞭を打って宿屋に来た。

²⁵ 楚漢戦争の五年間のこと。

²⁶ 魯の懷王が項羽を封じた旧号。項羽の死後、劉邦は礼を尽くして項羽を魯公として葬った。(『漢史』)

<3a:4>

(漢) 酒酣思睡

(喃) 醕俟醒悶昨

(口) rượu hầu say, muốn ngủ

(グ) 酒 ほぼ 酔う 欲する 眠る

(和) 酒に酔って愉快になり、眠ろうと思った。

<3a:5>

(漢) 見一人前致辭云

(喃) 体蔑尊典驛固徇浪

(口) thấy một người đến trước, có lời rằng

(グ) 見る 一人 至る 前 ある 言葉 曰く

(和) 一人の人が前に来て、次のように訴えているのが見えた

<3a:5>

(漢) 受旨吾王

(喃) 羈詔旨希些

(口) vâng chiếu chỉ vua ta

(グ) 従う 詔勅 王 私

(和) わが王の命を受け、

(喃和) わが王の詔勅に従い、

<3a:5>

(漢) 屈君對話

(喃) 煩昝典叻庫

(口) phiền người đến nói khó

(グ) 面倒をかける 汝 至る 話をする

(和) 話をしに来ていただきます。

<3a:6>

(漢) 胡即慌忙斂整

(喃) 戸胡卞倍傍怯納躡躡

(口) họ Hồ bèn vội vàng khép nép sửa sang

(グ) 氏 胡 すぐに あたふたと 恐れ入る 整える

(和) 胡はすぐに慌てて気を引き締めて身だしなみを整えた

<3a:6>

(漢) 其人即導之左

(喃) 所導意卞引{多去}買左

(口) thừa người ấy bèn dẫn đi mé tả

(グ) その人 その すぐに 案内する 行く 側 左

(和) その人はすぐに彼を左へ導いた。

(喃和) その人はすぐに左側へ案内して行った。

<3a:7>

(漢) 至則殿宇巍峩從官羅列

(喃) 典時体殿茹高筭官躑朝挿行

(口) đến thời thấy điện nhà cao cả, quan theo châu sắp hàng

(グ) 至る すなわち²⁷ 見る 王宮 家 高く大きい 官吏 従う 出仕する 列に並ぶ

(和) 着くと、王宮は高くて大きく、従官が列に並んでいた。

<3a:8>

(漢) 項王已先在坐

(喃) 項王躑包躑於蓐

(口) Hạng Vương trước đã ngồi ở đấy

(グ) 項王 前 すでに 座る ~にいる そこ

(和) 項王がすでに先にいて、座っていた。

<3a:8>

(漢) 傍設琉璃榻

(喃) 邊達牀琉璃

(口) bên đặt giường lưu li

(グ) 側 置く 寝台 瑠璃

(和) そばに瑠璃の寝台が設けてあり、

<3a:8>

(漢) 揖公即席

(喃) 揖昉胡典{席个}

(口) áp người Hồ đến tiệc

(グ) 両手を組んで会釈する (目下の) 人 胡 至る 席

(和) 手を組んで会釈し、彼を席に着かせた。

²⁷ 「時 thời」は「～ならば」などの意味だが、常に「則」の訳として現れるので、グロスでは「すなわち」とした。

<3b:1>

(漢) 問曰

(喃) 晦浪

(口) hỏi rằng

(グ) 尋ねる 曰く

(和) 尋ねて言うことには

<3b:1>

(漢) 日間題句

(喃) 句疎題班晷

(口) câu thơ đề ban ngày

(グ) 句 詩 書き記す 昼間

(和) 昼間に書き記した詩句だが、

<3b:1>

(漢) 子何見諒之深耶

(喃) 昫牢体岐蒸夥丕{爲个}

(口) ngroi sao thấy chê chung lắm vậy vậy

(グ) 汝 なぜ 見る²⁸ けなす ~に 非常に QUES

(和) あなたに私かなぜひどくそしられるのだろうか

<3b:2>

(漢) 所謂一敗有天亡澤左重來無地到江東則誠是矣

(喃) 所句浪一敗有天亡澤左重來無地到江東時實沛丕

(口) thừa câu rằng: nhất bại hữu thiên vong Trạch Tả, trùng lai vô địa đáo Giang Đông,
thời thực phải vậy

(グ) ~するところ²⁹ 句 曰く 一敗有天亡澤左重來無地到江東

すなわち 実に 正しい (断定)

(和) 詩句で「一敗有天亡澤左重來無地到江東」と言っているのは誠にその通りだ。

²⁸ 「体 thấy」に受身の意味はないが、「見」に対応する語としてそのまま当てたとと思われる。

²⁹ 助詞「所」には常にこの訳語が対応させられる

<3b:3>

(漢) 至於經營五載成何事銷得區區葬魯公無乃譏評失當乎

(喃) 典蒸句經營五載成何事銷得區區葬魯公拯卞岐盤失當卹

(口) đến chung câu: kinh dinh ngũ tải thành hà sự tiêu đắc khu khu táng Lỗ Công,
chẳng bèn chê bản thất đàng ru

(グ) 至る ～に 句 經營五載成何事銷得區區葬魯公

NEG すぐに けなす 論じる 失当 (反語)

(和) 「經營五載成何事銷得區區葬魯公」の句に至っては、批評するのは適切ではないのではないか。

<3b:5>

(漢) 夫漢萬乘也我亦萬乘也

(喃) 蒸茹漢固{門+万}具車丕些拱固{門+万}具車丕

(口) chung nhà Hán có muôn cỗ xe vậy, ta cũng có muôn cỗ xe vậy

(グ) ～に 王朝 漢 ある 万 組 車 (断定) 私 ～も ある 万 組 車 (断定)

(和) そもそも漢には万の馬車があり、私にも万の馬車がある。

<3b:6>

(漢) 我不能滅漢漢反能爵我耶

(喃) 些拯哈滅茹漢茹漢牢吏哈封爵朱些丕{爲个}

(口) ta chẳng hay diệt nhà Hán,
nhà Hán sao lại hay phong tước cho ta vậy vậy

(グ) 私 NEG 有能である 滅ぼす 王朝 漢

王朝 漢 なぜ 反対に 有能である 封ずる 爵位 ～に 私 QUES

(和) 私は漢を滅ぼすことができなかったが、漢は反対に私に爵位を授けることができたのだろうか。

<3b:7>

(漢) 且田横一介豎子

(喃) 魁峙田横羅蔑珂昆襖

(口) và người Diên Hoành là một gã con trẻ

(グ) その上 (目下の) 人 田横 COP 一 若造 子供 若い

(和) その上、田横³⁰は一人の小僧だが、

³⁰ 項羽の部下。項羽が倒された後、劉邦に投降を勧められるが、自害した。

<3b:7>

- (漢) 猶不貪漢爵
(喃) 羣拯貪爵茹漢
(口) còn chẳng tham tước nhà Hán
(グ) なお NEG 貪る 爵位 王朝 漢
(和) 依然として漢の爵位を貪らず、

<3b:8>

- (漢) 羞殺而死
(喃) 別虎自刎麻托
(口) biết hổ tự vẫn mà thác
(グ) 知る 恥 自刎する しかして³¹ 死ぬ
(和) 恥じて自ら首を切り、死んだ。

<4a:2>

- (漢) 豈以皇皇霸楚乃甘於魯公之禮哉
(喃) 呵褻弄業霸諾楚卞甘召蒸禮魯公丕台
(口) há lầy lộng lộng nghiệp bá nước Sở
bèn cam chịu chung lễ Lễ Công vậy thay
(グ) どうして～であろうか 取る 果てしなく広大な 事業 霸国 楚
すぐに 甘んじる ~に 礼 魯公 (詠嘆)
(和) どうして広大に楚に覇をとなくて、魯公の礼に甘んじるだろうか。

<4a:4>

- (漢) 彼爲此舉
(喃) 茹漢箕拮≡事意
(口) nhà Hán kia cất làm sự ấy
(グ) 王朝 漢 あの 上げる する 事 その
(和) あちらがこのことをしたのは

<4a:4>

- (漢) 蓋虚以爵位相加
(喃) 象空褻爵豈共朱
(口) tuồng không lầy tước ngôi cùng cho
(グ) 様子 むなしい 取る 爵位 座 共に 与える
(和) おそらく本当に爵位を加えるのではなく

³¹ 「麻 mà」は逆説の接続詞だが、解音では意味に関わず「而」にあてられるので、グロスで「しかして」とした。

<4a:5>

(漢) 償昔日漢中之耻耳

(喃) 填蒸虎暝躡封朱坦漢中丕

(口) đền chung hổ ngày trước phong cho đất Hán Trung vậy

(グ) 償う ~の 恥 日 前 封ずる ~に 地 漢中 (断定)

(和) 昔の漢中³²の恥を償おうとただけなのである。

<4a:6>

(漢) 請爲使君言之

(喃) 嗔爲使君吶幕

(口) xin vì Sứ quân nói đây

(グ) ~させてください ~のために 使君 言う それ

(和) どうか使君³³のためにこのことを言わせていただきたい

<4a:7>

(漢) 昔者秦失其鹿

(喃) 初意茹秦杖所犹

(口) xưa ấy, nhà Tần mất thừa hươu

(グ) 昔 その 王朝 秦 失う その 鹿

(和) 昔、秦がその鹿を失った³⁴。

<4a:8>

(漢) 爭者四起

(喃) 几爭意翠方越

(口) kẻ tranh ấy bốn phương đây

(グ) 者 争う その 四 方 蜂起する

(和) 争う者が四方で蜂起した。

<4a:8>

(漢) 予於是時

(喃) 些蒸當時意

(口) ta chung đương thời ấy

(グ) 私 ~に 当時 その

(和) 私はこの時に

³²関中の東の境界の地。以前、項羽は劉邦にここを与え、左遷させたことがある。

³³使者に対する尊称。

³⁴『史記』に「秦失其鹿、天下共逐之」とある。同音の「鹿」と「禄」をかけている。秦が滅びたことを指す。

<4b:1>

(漢) 因疾秦之民

(喃) 因蒸民{口結}茹秦

(口) nhân chung dân ghét nhà Tần

(グ) ~によって ~の 民 嫌う 王朝 秦

(和) 秦を憎んでいた民によって

<4b:1>

(漢) 興攻秦之師

(喃) 越蒸軍刀³⁵茹秦

(口) dấy chung quân đánh nhà Tần

(グ) 起こす ~の 軍 打つ 王朝 秦

(和) 秦を攻める軍隊をおこし、

<4b:1>

(漢) 伸鋤而矛

(喃) 宛昆絨麻³⁶𠄎𠄎𠄎

(口) uốn con bừa mà làm cái mâu

(グ) 矯正する CL まぐわ しかして する CL 矛

(和) 鋤を伸ばして矛にし、

<4b:2>

(漢) 煮麥而糧³⁶

(喃) 爛糶麥麻³⁶𠄎𠄎𠄎

(口) nấu gạo mạch mà làm cơm lương

(グ) 煮る 米 麦 しかして する 乾糧

(和) 麦を煮て干し飯(いい)にした。

<4b:3>

(漢) 𠄎𠄎𠄎皆兵

(喃) 几民閑調³⁶𠄎𠄎𠄎

(口) kẻ dân hèn đều làm binh

(グ) 者 民 卑しい 皆 ~になる 兵

(和) 民やしもべは皆兵士になり、

³⁵ 「刀」字は「打」の誤り(Nguyễn Quang Hồng 2001:39)。

³⁶ 「糧」に同じ。旅行者や軍隊が携帯する乾燥食糧。

<4b:3>

(漢) 豪傑皆將

(喃) 導豪傑調々將

(口) người hào kiệt đều làm tướng

(グ) 人 豪傑 皆 ~になる 將

(和) 豪傑は皆將軍になった。

<4b:4>

(漢) 潰吳如撞蟻穴

(喃) 打破坦吳朋摳魯蛄

(口) đánh phá đất Ngô bằng khía lỗ kiến

(グ) 撃つ 破る 地 吳 等しい かき払う 穴 蟻

(和) 蟻の穴をつくように吳を破った³⁷。

<4b:5>

(漢) 舉淮如燎鴻毛

(喃) 拈特坦淮朋焮{篝+羽}鴻

(口) cất được đất Hoài bằng đốt lông hồng

(グ) 上げる 得る 地 淮 等しい 燃やす 毛 ヒシクイ

(和) ヒシクイの羽毛³⁸を焼くように淮³⁹を攻め克った。

<4b:6>

(漢) 一戰而北章邯之師

(喃) 蔑陣打麻蒸軍章邯王輸{逐+篤}

(口) một trận đánh mà chung quân Chương Hàm Vương thua trốn

(グ) 一 戦い 打つ しかして ~の 軍 章邯王⁴⁰ 負ける 逃げる

(和) 一度戦って章邯の軍を負かした。

<4b:8>

(漢) 再戰而墟祖龍之廟

(喃) 仝陣打麻蒸廟秦祖龍囉{王區}

(口) hai trận đánh mà chung miếu Tần Tô Long ra gò

(グ) 二 戦い 打つ しかして ~の 廟 秦 祖龍 出る 丘

(和) また戦って祖龍⁴¹の廟を廢墟にした。

³⁷ 項羽が吳の地で挙げた大きな戦功の一つを指す。

³⁸ 軽いものたとえ。

³⁹ 邳(ひ)州の淮安、項羽が6、7万の秦の軍を破ったところ。

⁴⁰ 秦の將軍。

⁴¹ 始皇帝。

<5a:1>

(漢) 徳義行而無不樹之國

(喃) 徳義 ⇨ 麻拯固蒸苧苧羅拯特窮鄧

(口) đức nghĩa làm mà chẳng có chung nước nào là chẳng được gây dựng

(グ) 徳 義 する しかして NEG ある ~の 国 どの COP NEG 得る 生み出す 立てる

(和) 徳と義で行って打ち立てられない国はない。

<5a:2>

(漢) 威令加而無不臣之人

(喃) 威令囉麻拯固蒸苧苧羅拯特 ⇨ 碎

(口) uy linh ra mà chẳng có chung người nào là chẳng được làm tôi

(グ) 威令 出す しかして NEG ある ~の 人 どの COP NEG 得る する 臣下

(和) 徹底した命令を与えて臣下にできない人はいない。

<5a:3>

(漢) 冠諸侯則楚之兵

(喃) 戢欣苧諸侯時蒸軍茹楚

(口) rấp hơn nước chư hầu thời chung quân nhà Sở

(グ) (不明)⁴² より 国 諸侯 すなわち ~の 軍 王朝 楚

(和) 諸侯の上に出たのは楚の軍である。

<5a:3>

(漢) 王三秦則楚之將

(喃) ⇨ 王坦三秦時蒸將茹楚

(口) làm vương đất Tam Tần thời chung tướng nhà Sở

(グ) ~になる 王 地 三秦 すなわち ~の 将 王朝 楚

(和) 三秦の王になったのは楚の將軍である。

<5a:4>

(漢) 天下歸楚可坐而策

(喃) 天下衛茹楚可斲麻計褻

(口) thiên hạ về nhà Sở khá ngồi mà kẻ lấy

(グ) 天下 帰る 王朝 楚 ~すべき 座る しかして 考える 取る

(和) 天下は楚に帰し、座って計画を立てられるところだった。

⁴² 読み方 (対応するベトナム語の語) が不明であるが、「冠」「蓋」「覆」という漢語の訳として当てられているので、「おおう」「上に立つ」などの意味を持つ語と考えられる。暫定的に rấp と読む。

<5a:5>

- (漢) 然卒見斃於漢
 (喃) 雙{婁車}吏体蒸茹漢折
 (口) song sau lại thấy chung nhà Hán giết
 (グ) しかし 後 逆に 見る ～に 王朝 漢 殺す
 (和) しかし結局漢に倒されてしまった。

<5a:5>

- (漢) 庸非天乎
 (喃) 參拯歪丕咄
 (口) chin chẳng Trời vậ ru
 (グ) いうまでもなく NEG 天 (詠嘆)
 (和) 天運でなかったはずがあるうか。

<5a:6>

- (漢) 然則天之扶漢
 (喃) 丕時歪蒸扶祚茹漢
 (口) vậ thời: Trời chung phù hộ nhà Hán
 (グ) そのようである すなわち 天 ～の 助け支える 王朝 漢
 (和) それならば、天が漢を助けたのは、

<5a:6>

- (漢) 雖吹簫織薄亦足以成功
 (喃) 雖几腿簫緹繖拱堵默麻穢功
 (口) tuy kẻ thổi tiêu dệt rèm cũng đủ mặc mà nên công
 (グ) ～と雖も 者 吹く 笛 織る すだれ ～も 足りる ～するために 手柄を立てる
 (和) 笛を吹き、すだれを織っていても⁴³功をあげるのに十分であったということである。

<5a:8>

- (漢) 天之亾楚
 (喃) 歪蒸↔杖茹楚
 (口) Trời chung làm mất nhà Sở
 (グ) 天 ～の する なくなる 王朝 楚
 (和) 天が楚を滅ぼしたのは、

⁴³劉邦の祖先の人々はこれらを生業としていた。

<5b:1>

(漢) 雖鼎拔山不能以語勇

(喃) 雖飭梗鑊粹崗拯哈默麻呐孟

(口) tuy sức gánh vác trút núi chẳng hay mặc mà nói mạnh

(グ) ～と雖も 力 肩に担ぐ 鼎 移す 山 NEG 有能である ～するために 言う 強い

(和) 鼎を持ち上げ、山を引き抜くことができても、勇ましいことを語ることができないということである。

<5b:3>

(漢) 況鍾離之健不下淮陰

(喃) 方之蒸飭孟昝鍾離拯劒官侯淮陰

(口) phương chi: chung sức mạnh người Chung Li chẳng kém quan Hầu Hoài Âm

(グ) ましてや ～の 力 (目下の) 人 鍾離 NEG 劣る 官吏 侯 淮陰

(和) ましてや鍾離⁴⁴の力は淮陰侯⁴⁵に劣っている。

<5b:4>

(漢) 亞父之謀實浮孺子

(喃) 蒸謀昝昝亞父實欣昝陳孺子

(口) chung mưu lo người Á Phụ thực hơn người Trần Nhu Tử

(グ) ～の はかりごと 謀る (目下の) 人 亜父 実に まさる (目下の) 人 陳 孺子

(和) 亜父⁴⁶のはかりごとは実に孺子⁴⁷を上回っていた。

<5b:4>

(漢) 使吾聽言能審

(喃) 遣些眩例呐哈察

(口) khiến ta nghe lời nói hay xét

(グ) ～させる 私 聞く 言葉 言う 有能である 審査する

(和) 私に話を聞いて判断させてもらうならば、

⁴⁴楚の武將。

⁴⁵淮陰侯韓信、漢の武將。

⁴⁶范增、楚の策士。

⁴⁷陳平、漢の策士。

<5b:5>

(漢) 因敗爲功

(喃) 因欺輸↗功

(口) nhân khi thua làm công

(グ) ~によって 時 負ける する 功

(和) 負けるような状況で、転じて勝利となったということだ。

<5b:5>

(漢) 策烏騅之倦足

(喃) {木越} 𪔵蒸眞瘳馭烏騅

(口) vọt giục chung chân mỏi ngựa Ô Truy

(グ) 鞭 促す ~の 足 疲れた 馬 烏騅

(和) 烏騅⁴⁸の疲れた足を鞭打った。

<5b:8>

(漢) 豈不能犁豐沛之宮庭

(喃) 呵拯哈棋蒸准宮庭坦豐沛

(口) há chẳng hay cày chung chốn cung đình đất Phong Bái

(グ) どうして~であろうか NEG 有能である 鋤く ~の 地点 宮廷 地 豐沛

(和) どうして豐沛の宮廷を掘り起こせなかったわけがあらうか。

<5b:8>

(漢) 收彭城之散卒

(喃) 收特蒸軍散坦彭城

(口) thu được chung quân tan đất Bành Thành

(グ) 集める 得る ~の 軍 散る 地 彭城

(和) 彭城⁴⁹の散った軍を集めて。

<6a:1>

(漢) 豈不能沼赤劉之宗社

(喃) 呵拯哈陶蒸茹宗社戸赤劉

(口) há chẳng hay đào chung nhà tông xã họ Xích Lưu

(グ) どうして~であろうか NEG 有能である 掘る ~の 建物 宗社 氏 赤劉

(和) どうして赤劉の宗社を沼とすることができなかったわけがあらうか。

⁴⁸龍の化身と言い伝えられていた大きな黒い馬。項羽はこれを鞭によってひれ伏させた。

⁴⁹項羽の軍が劉邦の軍に大勝した戦いがあったところ。

<6a:2>

- (漢) 直爲生靈之故
(喃) 合爲蒸據生靈
(口) hợp vì chung có sinh linh
(グ) まさに ため ~の 理由 生靈
(和) まさに人々のゆえに。

<6a:2>

- (漢) 以堂堂八尺之軀
(喃) 裊蒸{人/丙}言言糝拊
(口) lấy chung mình ngôn ngôn tám thước
(グ) 取る ~の 体 大きい 八 尺
(和) 堂々たる八尺の体をもって

<6a:3>

- (漢) 挈而付之王翳諸人之手
(喃) 拈麻拌蓐蒸{手思}時王翳每導
(口) cắt mà trao đây chung tay người Vương Ể mọi người
(グ) 切る しかして 渡す それ ~の 手 (目下の) 人 王翳 皆 人
(和) それを切って王翳と皆の者に与えた⁵⁰。

<6a:5>

- (漢) 漢楚興匹
(喃) 茹漢茹楚蔑越蔑秩
(口) nhà Hán nhà Sở một đây một mắt
(グ) 王朝 漢 王朝 楚 一 起こす 一 なくなる
(和) 漢と楚の(片方が)興ったのと(もう片方が)滅んだのとは

<6a:5>

- (漢) 天之幸與不幸耳
(喃) 歪蒸朱福共拯朱福丕
(口) Trời chung cho phúc cùng chẳng cho phúc vậy
(グ) 天 ~の 与える 福 共に NEG 与える 福 (断定)
(和) 天の幸運と不幸だけだ。

⁵⁰項羽は漢の軍に烏江で追いつかれた時、「漢が私の首に千金と万邑を懸けていると聞いている。おまえにその恩賞をやろう」と言って白刃し、王翳がその頭を取った。

<6b:3>

- (漢) 往往形諸篇什⁵¹
(喃) 恒恒{著烈}蒸篇箕什怒
(口) *hằng hằng rết chung thiên kia thập nọ*
(グ) 常に 現す ~に 篇 あの 什 その
(和) 常々詩歌で現している

<6b:3>

- (漢) 有曰
(喃) 固句浪
(口) *có câu rằng*
(グ) ある 句 曰く
(和) このようにいうものがある

<6b:3>

- (漢) 蓋世英雄力拔山
(喃) 等英雄戡韃代飭哈摔崗
(口) *đẳng anh hùng rập trong đời sức trút núi*
(グ) 人⁵² 英雄 覆う(?)⁵³ 中 世 力 移す 山
(和) 世を覆うほど覇気のある英雄の力は山を引き抜くほどである

<6b:4>

- (漢) 楚歌四散淚闌干⁵⁴
(喃) 聾啗歌楚翠皮調破散莎諾{密目}溟和
(口) *nghe tiếng ca Sở bốn bề đều vỡ tan, sa nước mắt chan hòa*
(グ) 聞く 声 歌 楚 四 方面 みな 破裂する 散る 落ちる 涙 あふれる
(和) 楚の歌が四方に散り⁵⁵、涙がはらはらと流れる。

⁵¹ 『詩経』にて、十編で一什を構成したことから、詩編の別称。

⁵² 神格、聖人、英雄などに対する類別詞

⁵³ <5a:3>の1文目参照。

⁵⁴ この詩の原典は不明。

⁵⁵ 垓下で項羽が漢軍に包囲された時、漢軍が楚の歌を歌っているのを聞いて、楚の兵たちが寝返ったのだと思った。「四面楚歌」のもととなった故事。

<6b:8>

(漢) 有曰

(喃) 固句浪

(口) có câu rằng

(グ) ある 句 曰く

(和) このようにいうものがある

<6b:8>

(漢) 君不君兮臣不臣

(喃) 君拯沛君丕碎拯沛碎

(口) vua chẳng phải vua vậy, tôi chẳng phải tôi

(グ) 王 NEG 正しい 王 (断定) 臣下 NEG 正しい 臣下

(和) 君主は君主でなく、臣下は臣下でない

<6b:8>

(漢) 如何立廟在江津⁵⁶

(喃) 兼芾立廟餘於遠渡滝

(口) dường nào lập miếu thờ ở trên bên sông

(グ) 程度 どの 立てる 廟 拝む ~にある 上 波止場 川

(和) どのように渡し場に廟を建てようか。

<7a:2>

(漢) 日添月積

(喃) 日添月積

(口) ngày thêm tháng chứa

(グ) 日 加える 月 貯蔵する

(和) 日に日に加えられ月ごとに蓄えられ、

<7a:2>

(漢) 多至千章

(喃) 多至千章

(口) nhiều đến ngàn chương

(グ) 多い 至る 千 章

(和) 多く千章に至る。

⁵⁶ 王安石の詩

<7a:3>

(漢) 惟杜牧一聯曰

(喃) 盃酌杜牧固蔑聯疎浪

(口) bui người Đỗ Mục có một liên thơ rằng

(グ) ただ (目下の) 人 杜牧 ある 一 聯 詩 曰く

(和) ただ杜牧⁵⁷だけが、一つの詩にこう言った

<7a:3>

(漢) 江東子弟多才俊

(喃) 昆媿坦江東濼几才賢

(口) con em đất Giang Đông nhiều kẻ tài hiên

(グ) 子 弟 地 江東 多い 者 才能 才知がすぐれた

(和) 江東の子弟には才能にすぐれた人物が多かった

<7a:4>

(漢) 捲土重來未可知

(喃) 收坦吏吝女時賭可別

(口) thu đất lại lần nữa thời chửa khả biết

(グ) 集める 地 来る 回 その上 すなわち まだ できる 知る

(和) 捲土重来もできたかもしれない

<7a:5>

(漢) 委曲忠厚

(喃) 妙揚忠厚

(口) dịu dàng trung hậu

(グ) もの柔らかかである 真心があつて情に厚い

(和) 婉曲的で、まごころあり親切丁寧で、

<7a:5>

(漢) 得詩家格律

(喃) 特格律茹 疎

(口) được cách luật nhà làm thơ

(グ) 得る 格律 家 作る 詩

(和) 詩家の格律⁵⁸を得ており、

⁵⁷ 晩唐の詩人

⁵⁸ 句数・平仄・押韻の規則。

<7a:6>

(漢) 讀之差彊人意

(喃) 讀蒂添吡越悉导

(口) đọc đấyl thêm đứcdấyl lòng người

(グ) 読む それ 加える 生き生きとする 心 人

(和) これを読むと人の心をつよくさせる

(喃和) それを読むことは人の心に生き生きした気持ちを加える

<7a:6>

(漢) 其餘大抵涉於浮薄

(喃) 所几乘女体智過蒸浮薄

(口) thừa kẻ thừa nữ trên cả quá chung phù bạc

(グ) その 者 余り その上 大抵 過ぎる ~に 浮薄

(和) そのほかは大抵軽薄にわたっている。

<7a:7>

(漢) 此吾所以深不平

(喃) 意些所黙審拯朋悉

(口) ấy ta thừa mặc thăm chẳng bằng lòng

(グ) それ 私 所以⁵⁹ 深い NEG 満足する

(和) これが、私が不満に思い、…する理由である。

<7a:7>

(漢) 而爲使君鳴也

(喃) 麻爲使君嘆叫丕

(口) mà vì Sứ quân than kêu vậyl

(グ) しかして ~のために 使君 嘆く 叫ぶ (断定)

(和) そして使君⁶⁰のために嘆く (理由) である。

<7a:8>

(漢) 公笑曰

(喃) 昫宗驚啜浪

(口) người Tông Thốc cười rằng

(グ) (目下の) 人 宗驚 笑う 曰く

(和) 彼は笑って次のように言った。

⁵⁹ 助詞の「所」には常に「所 thừa」が、接続詞の「以」には常に「黙 mặc」(前置詞ならば「褻 lầy」)が訳語として対応させられ、熟語の「所以」も一字ずつ訳語があてられている。

⁶⁰ 使者に対する尊称。

<7a:8>

(漢) 天理人事相爲始終

(喃) 理至役尋共初{婁車}

(口) lẽ Trời việc người, cùng làm xưa sau

(グ) 道理 天 事 人 共に する 昔 後

(和) 天の法則と人の事は共に始まりから終わりまで働いている。

<7b:1>

(漢) 謂命在天

(喃) 浪命於至

(口) rằng mệnh ở Trời

(グ) 曰く 運命 ~にある 天

(和) 運命は天にある⁶¹と言ったが、

<7b:1>

(漢) 此商紂所以喪國

(喃) 意壽紂茹商所默秩浩

(口) ấy vua Trụ nhà Thương thừa mặc mất nước

(グ) それ 王 紂 王朝 商 所以 失う 国

(和) これが、商の紂王が国を失った理由である。

<7b:2>

(漢) 謂天生德

(喃) 浪至生德

(口) rằng Trời sinh đức

(グ) 曰く 天 生む 徳

(和) 天は徳を生んだ⁶²と言ったが、

<7b:3>

(漢) 此新莽所以儻身

(喃) 意昞莽浩新所默涅{人/丙}

(口) ấy người Mãng nước Tân thừa mặc nát mình

(グ) それ (目下の) 人 莽 国 新 所以 粉々にする 体

(和) これが新の王莽が体を切り身にされた理由である。

⁶¹ 紂王の言葉。

⁶² 王莽の言葉。

<7b:4>

(漢) 今王乃捨人而談諸天

(喃) {尼今}項王卞補事導麻訥蒸事委

(口) nay Hạng Vương bèn bỏ sự người mà nói chung sự Trời

(グ) 今 項王 すぐに 捨てる 事 人 しかして 言う ~に 事 天

(和) そこで今、王が人のことを捨てて天のことにして話すので、

<7b:4>

(漢) 此王終焉喪敗

(喃) 意項王{全/倫}丕沛秩輸

(口) ấy Hạng Vương trọn vậy phải mất thua

(グ) それ 項王 全て (断定) 正しい なくなる 負ける

(和) それで王は終わり、失敗したのでしょうか。

<7b:5>

(漢) 而不能悟也

(喃) 麻拯哈別丕

(口) mà chẳng hay biết vậy

(グ) しかして NEG 有能である 知る (断定)

(和) そして悟れないのです。

<7b:5>

(漢) 今僕幸蒙延接

(喃) {尼今}綿福恩預綽接

(口) nay min phúc ơn dự rước tiếp

(グ) 今 私 幸福 恩 あずかる 歓迎する もてなす

(和) 今、私は幸いにご接待いただきましたので、

<7b:6>

(漢) 請得正言無隱如何

(喃) 嗔特排例証渚鬪莖苳

(口) xin được bày lời chớ giấu dường nào

(グ) ~させてください 得る 並べる 言葉 ~してはいけない 隠す 程度 どの

(和) 隠すことなくはっきりと言わせていただいのですがいかがでしょうか。

<7b:6>

(漢) 王曰唯唯

(喃) 項王浪{口衣}{口衣}

(口) Hạng Vương rằng: ày, ày

(グ) 項王 曰く はい

(和) 王は、はい、と言った。

参考文献

Hoàng, Thị Hồng Cẩm (1999), *Tân biên Truyền kỳ mạn lục: Nghiên cứu văn bản và vấn đề dịch Nôm*, Nhà Xuất bản Văn hóa dân tộc, Hà Nội.

川本邦衛(1999)『傳奇漫録刊本攷』、慶應義塾大学言語文化研究所。

川本邦衛編(2011)『詳解ベトナム語辞典』、大修館書店。

Nguyễn, Quang Hồng (2001) (翻音、註解), Nguyễn Dữ (漢文原作), Nguyễn Thế Nghi (字喃文訳), *Truyền kỳ mạn lục giải âm*, Nhà Xuất bản Khoa học Xã hội, Hà Nội.

Nguyễn, Quang Hồng (2008), *Khái luận văn tự học chữ Nôm*, Nhà Xuất bản Giáo dục, TP. Hồ Chí Minh.

佐藤進、濱口富士雄編(2011)『全訳 漢辞海 第三版』、三省堂。

Vũ, Đức Nghiệu (2011), *Lịch sử từ vựng tiếng Việt*, Nhà Xuất bản Giáo dục Việt Nam.

Vương, Lộc (2002), *Từ điển từ cổ*, Nhà Xuất bản Đà Nẵng và Trung tâm Từ điển học, Hà Nội – Đà Nẵng.

Vietnamese Nôm Preservation Foundation, Nôm Lookup Tool,

<http://nomfoundation.org/nom-tools/Nom-Lookup-Tool/>

An Attempt of Translating *Truyện kỳ mạn lục* giải âm, a 16th Century Classical Chinese – Chữ Nôm Vietnamese Bilingual Document

WASHIZAWA Takuya

Keywords: *Truyện kỳ mạn lục*, giải âm, Vietnamese, Chữ Nôm, Classical Chinese, Bilingual Document

Abstract

Glosses and translations of a part of “giải âm” text of *Truyện kỳ mạn lục* is attempted. The text is a bilingual document of Classical Chinese and Old Vietnamese written in 16th century. The Vietnamese text is written in Chữ Nôm script, which is a national script made by transforming Chinese characters, and a transliteration is made by Nguyễn Quang Hồng (2001). The document is important in studying Vietnamese language of that period and in studying about the language contact through learning how a literal translation was made from Chinese to Vietnamese in giải âm text. A significant contribution of this report to later researches of such fields is expected.

(わしざわ・たくや)